

\*\*\*\*\*

「海の生き物を守る会」メールマガジン No.24

2008. 9. 15 (月)

# うみひろも

Association for Protection of Marine Communities (AMCo)

Homepage : <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

\*\*\*\*\*

## 「今日の海の生き物」 エゾタマキビ *Littorina squalida*

東北以北の沿岸浅海に生息する巻貝で、エゾタマキビ科の代表種。潮間帯の下部から水深



2-3m  
までの浅  
いところ  
に棲むが、  
内湾など  
多少塩分  
の低い場  
所に見ら  
れる。  
岩礁

のみならずアマモの葉上などにも生息している。

(写真はサロマ湖のアマモ場にて

向井 宏撮影)

\*\*\*\*\*

目次 「今月の海の生き物」 エゾタマキビ

1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース
2. 当会の活動予定
3. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報
4. 海の生き物とその環境に関する出版物の紹介
5. 事務局便り
6. 編集後記
7. 「うみひろも」と「海の生き物を守る会」について

\*\*\*\*\*

## 1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース

### 【全国】

#### ●輸入鯨肉 85トン、廃棄処分か？

今年6月4日以前に北欧から日本に輸入され、国内の保税倉庫に保管されている85トンにもなる鯨肉が、2カ月以上を過ぎた現在も輸入手続きの申請をしていないことが明らかになった。関税法では3カ月の保管期限を過ぎれば廃棄の対象となる可能性がある。無駄な捕鯨が行われ、無駄な命が絶たれたことになる。何のための輸入だったのだろうか？グリーンピースジャパンの調査で明らかになった。

### 【北海道】

#### ●巨大なハナサキガニが捕獲された

北海道東部の根室半島沿岸で行われているハナサキガニの漁で、重さ5kgを超える過去最大級のハナサキガニが網に掛かり、根室市の歯舞漁港に水揚げされた。濃厚な味わいで人気があるハナサキガニは、カニではなくヤドカリの仲間で、サハリンや道東の沿岸の浅い海域に生息している。網で捕獲されるのは通常1kg前後の大きさのカニだが、今回捕獲されたのは立派な雄で15年以上生きていと推定されている。網をあげた歯舞漁協所属のカニ船主は「カニ漁を約20年間続けてきたが、見たこともない大きさだ」とびっくりしていた。あまりの見事さにこのカニは生かしたまま市の水産研究所に運ばれ、研究用に飼育されることになった。

### 【中国】

#### ●山口県知事が面会拒否

山口県上関町長島に建設計画がある上関原子力発電所に反対する対岸の祝島の島民たちが10日、二井関成山口県知事との面会を求めて県庁を訪れた。中国電力が原発建設のため

の公有水面埋め立ての申請書を提出したため、県が埋め立て免許を与えることに反対して知事に反対署名を直接渡そうとしたが、二井知事は面会を拒否した。そのため島民たちが県庁内に4時間にわたって座り込んで埋め立て反対を訴えた。

「上関原発を建てさせない祝島島民の会」の約60人が午前9時前ごろ、知事室入り口で約2400人の反対署名を手に面会を要請。秘書課職員が「商工労働部で対応する」と移動を促したが、島民たちはそれに応じず座り込んだ。県側が「知事は町民から直接意見を聞くことは考えていない」と通告。島民たちは横断幕を掲げて県庁内を歩き「原発反対」を訴えた。埋め立て申請の審査が進み、まもなく知事が許可を与える見通しで、上関原発は年内にもいよいよ建設工事が始まりそうな気配である。アセスに記載されたり、中国電力が約束した環境保全措置がどの程度実効ある物になるのか、注視していかなければならない。

## ●中電がカムリウミスズメ生息調査結果発表

「長島の自然を守る会」が発見した国の天然記念物カムリウミスズメが山口県上関町長島周辺で繁殖している可能性があり、中国電力に原発建設の影響追加調査を求めている件で、中国電力は原発建設予定地周辺で見つかったカムリウミスズメの専門家による生息調査を行い、結果を発表した。それによると「予定地で繁殖している可能性はほとんどない」としている。調査は今後も来年5月ごろまで続ける予定である。中国電力が専門家としたのは、民間の環境アセス会社「野生生物保全研究所」の社長で日本鳥学会会員の橋口大介氏。今年5—8月、建設予定地から10数キロ圏内を4回、延べ13日間、船上から調査した。その間、計50羽を確認したが、巣立ちのピークとされる5月初旬は見つからなかったという。また、8月には予定地の海岸約2キロを調査。営巣の可能性のある約40カ所を確認したが、巣や卵は発見されず繁殖に適した場所は多くなかった。こうした結果から、予定地周辺のカムリウミスズメは他の地域で繁殖・成長したカムリウミスズメが移動してきたもので原発建設の影響は無いと推論している。しかし、九州大学大学院のカムリウミスズメの専門家（本当の専門家）によると、営巣・繁殖の可能性は十分あるとしている。施工主に雇われた「専門家」の調査結果はどこまで信用できるのだろうか？

## ●「上関の埋め立て許可しないで」

### 長島の自然を守る会らが署名と絵手紙作戦

上関町長島に建設が計画されている上関原子力発電所をめぐり、中国電力が提出している海面の埋め立て申請を県が許可しないよう求めて、「長島の自然を守る会」は、知事にあてた署名運動を始めた（後述）。建設予定地周辺の海域に国の天然記念物であるカムリウミスズメが生息しているなど、生態系豊かな自然の宝庫であるとして、知事に埋め立てを許可しないよう判断を求める。また地元の反原発市民団体の「原発いらん！山口ネットワーク」は、「県知事へ絵手紙大作戦」として「いのちの海を埋め立てないで」というメッセージと建設予定地周辺の風景などを描いた絵はがきを作製し、賛同者に3枚1組、150

円で販売している。市民から知事にあててこの絵手紙を送ることによって、少しでも知事に埋め立て反対の意志を伝えたいとしている。はがきの表には知事にあてて「予定地の田の浦の浜を埋め立てないで」などのメッセージも書かれている。

## ●榎野川河口域の干潟保全学ぶ？

山口市の榎野川河口域は、自然再生法に基づく自然再生事業の対象となっているが、河口域の干潟保全について学ぶ催しが13日、同市秋穂二島の県水産研究センター内海研究部で行われ、親子連れなど約30人が参加。温暖化で増加していると言われるナルトビエイの駆除の見学やナルトビエイの煮物の試食を行った。参加者は、榎野川漁協の組合員の建網でのナルトビエイの駆除を見学。子どもたちは、貝をすくい取る頑丈な下あごなどを観察した。この催しが干潟の保全にどのように貢献するのかは、不明である。

## ●岡山県牛窓沖の水温が過去最高

岡山県牛窓沖の今年の夏の平均海水温が、1974年に観測を開始して以来最も高くなったことが、岡山県水産試験場の観測から明らかになった。8月12日には1日平均29.5℃で、観測史上最高となった。猛暑と少雨が主な原因とみられているが、地球温暖化の影響も否定できない。秋以降も高水温が続くようなら、水産物への悪影響も心配されている。

同試験場は、沖合の水深約2mの水温を毎日30分おきに自動計測しており、それによると今夏は7月初旬から平年を上回り、7月25日に26.9℃と過去最高を記録した。8月末までに当日の最高水温を更新したのは合計15日あり、2カ月間の1日平均水温は26.2℃となった。この値は県内で記録的な大渇水となった94年（計測不能期間があったため参考値）に匹敵するものであった。

## 【四国】

### ●人工ふ化の子ガメを深夜に放流

徳島県美波町の日和佐大浜海岸では、アカウミガメが産卵に上陸する砂浜海岸として有名であるが、1990年代後半から最近にかけては産卵に上陸するアカウミガメが急激に減少し、2006年にはたった二頭の産卵しか確認されなかった。そのために、保護のための取り組みを強めようと叫ばれている。

そこで大浜海岸にあるうみがめ博物館「カレッタ」は今年から館内の人工ふ化場で生まれた子ガメを深夜に放流することになった。カレッタの人工ふ化場では8月一カ月間で336匹の子亀がふ化した。そのうち300匹近くが夜間に生まれている。最近のカレッタでの研究では、ふ化後一日たてば泳ぐ力が著しく落ちることが分かった。このため泳ぐ能力が高

いふ化直後に放流し、子ガメの生存率を上げることが必要とされ、これまで観光客の集まる日曜に放流していたのを、一部を除いて取りやめ、去年は生まれた日の夕方、放流会を開いて海に放した。しかし、夕方の放流でもふ化後半日がたっており、既に動きが鈍っている子ガメも多かったという。そこで、今年は少しでも元気なうちに海に送り出せば生存率も上がるのでは、と夜の放流を始めた。一方、観光客に人気が高い放流会をすべてやめ、てしまうわけにもいかず、日中、ふ化した子ガメは、当日夕に放すことにした。

カレッタでは大浜海岸で産卵した卵のうち、波にさらわれそうな場所にある卵を人工ふ化場に移し、保護している。しかし、わずかに年間二頭にまで減少したアカウミガメの産卵上陸を子ガメの人工孵化放流で増加に結びつけられるのだろうか？アカウミガメの産卵上陸が減った理由が、砂浜の消失や砂の堆積環境の変化にあるとしたら、人工孵化と子ガメの放流は、逆効果になりかねない。

### ●菊池川のシジミ減少…川砂採取で海水流入原因か

熊本県の八代海に流れ込む菊池川では、1980年代まで数十トンも獲れていた玉名市の河口のヤマトシジミが激減してしまった。その原因はかつての川砂の大量採取が主要な原因であるとする見方が囁かれている。熊本県立大学の環境科学科の学生たちがそのヤマトシジミの減少原因の究明に取り組み始めている。河口は川と海の接点であるだけでなく、森から里にかけての人間活動の影響を集約的に受ける場所でもあり、ヤマトシジミの減少の原因を探す試みは、森から海へのつながりを見直す機会になると期待される。

## 【沖縄】

### ●辺野古の海にアオサンゴの群落

2007年9月、ジュゴンの生息地である沖縄県名護市大浦湾で、大規模なアオサンゴ群集が発見されました。「沖縄リーフチェック研究会」（会長：安部真理子）、「じゅごんの里」（代表：東恩納琢磨）のメンバーの調べで、おおよそ水深2～14mの斜面に、幅30m、長さ50mの広範にわたりアオサンゴが分布していることが分かり、白保以外にこのような規模でアオサンゴが分布していることはこれまで知られていませんでした。詳細な調査を行うため、日本自然保護協会・WWF ジャパン、国士舘大学地理学教室・沖縄リーフチェック研究会・じゅごんの里が協力し、2008年1月から5月にわたり合同調査を行いました。その結果、辺野古・大浦湾は、サンゴ礁と大きな湾という異なるタイプの環境が隣接する、沖縄県内でも特異な海域であり、豊かな生物多様性を保ち、保護すべき重点地域（ホット・スポット）であることが改めて確認されました。

沖縄島・大浦湾における アオサンゴ群集 合同調査 レポート (速報)

～生物多様性豊かな辺野古・大浦湾の海～ 全文 (PDF ファイル/1281KB)

[http://www.nacsj.or.jp/old\\_database/henoko/henoko-080718-hokoku.pdf](http://www.nacsj.or.jp/old_database/henoko/henoko-080718-hokoku.pdf)

### ● 3年めどで閉鎖も条件 沖縄県知事、移設案修正とセットで要求

仲井真弘多沖縄県知事は10日、沖縄県宜野湾市の米軍普天間飛行場移設問題で公約としているキャンプ・シュワブ沿岸部(名護市)への移設案を沖案へ修正するようにあらためて求めるとともに、同飛行場の「3年めどの閉鎖」が実現しない限り、政府に代替施設建設のための公有水面埋め立てを許可しないとの考えを明らかにした。

仲井真知事はこれまで、シュワブ沿岸部への移設を容認する一方で、現行の政府移設案の滑走路位置を沖合に修正するよう強く要求してきた。今回、埋め立て許可の条件として「閉鎖状態」実現も明確に位置付けたことで、問題決着へのハードルを引き上げた格好だ。知事は、2つの公約を「基本的にはパッケージだ」と明言。反対論が根強い同飛行場の県内移設を容認する厳しい立場を訴え、公約を「ささやかな条件だと思っている」と述べた。

知事の沖合移設論がなかなか政府に受け入れられないことから、普天間基地の移設という日本政府のアメリカへの公約を認めないという姿勢を示すことで、政府の姿勢転換を狙ったものと思われる。辺野古基地の沖合移設には多量の海砂採取が必要とされており、海砂組合とつながりのある知事はその利権を追求しているという指摘もあるので、興味深い知事の言動である。

### ● 日本生態学会が新石垣空港工事の中断と見直しを要求

日本生態学会自然保護専門委員会では、九州地区会から提案があった新石垣空港の工事による環境への悪化が深刻になりつつあることを懸念する要求書を環境相および沖縄県知事に提出した。要求書の内容は以下の通り。

新石垣空港の建設が、沖縄県石垣島東部の白保サンゴ礁海岸に隣接する陸域(カラ・カルスト地域)で進められている。この地域はカラ岳南部一帯に広がる琉球石灰岩台地で、面積0.6平方キロの狭い地域ながら、国指定の特別天然記念物カムリワシをはじめ、キンバト、セマルハコガメ、キシノウエトカゲ、オカヤドカリ、コガタハナサキガエルなどの希少動植物227種(沖縄県、2007)が生息している。また自然洞窟群が集中し、絶滅危惧IB類にランクされた3種の琉球列島固有コウモリ類(カグラコウモリ、ヤエヤマコキキガシラコウモリ、リュウキュウユピナガコウモリ)の重要な生息地となっている。空港予定地のすぐ前面の海は、北半球で最大・最古とされるアオサンゴ群落を含む世界有数のサンゴ礁生態系である。

この海を埋め立てるかつての新石垣空港計画は2度にわたって撤回され、現在のカラ・カルスト地域に変更されたが、本地域の計画についても希少な動植物への重大な影響や赤

土流出によるサンゴ礁生態系の破壊が危惧される。新石垣空港整備事業に係る環境影響評価に対して、2005年4月に環境大臣から国土交通省大臣への意見として、小型コウモリ類とサンゴ礁生態系等の保全が強く要請された。しかし、工事の進行とともに、両者の状況は悪化の一途をたどっている。

現在、カラ・カルスト地域の洞窟群には、カグラコウモリ約4,000頭、ヤエヤマコキクガシラコウモリ約3,000頭、リュウキュウユビナガコウモリ約1,000頭が生息すると推定されている（沖縄県、2005）。これらを合計すれば8,000頭となり、石垣島の3種個体数の5割近くを占めているが、特にリュウキュウユビナガコウモリでは6割を占めている。しかも、当地域にはこれらのコウモリが出産・哺育や休眠（冬眠）に利用する洞窟がいくつも存在している。島内で調査された80ヶ所以上に及ぶ洞窟のうち、コウモリ類の利用が確認されたものは半数程度であり、その中でも同規模の出産・哺育場所や冬眠場所として利用されている洞窟は数ヶ所に限られている。

新石垣空港の建設によってこれらの洞窟の多くは破壊される予定であり、餌場となっている樹林帯は減少し、移動経路の多くは分断されることになる。これらの相乗的な影響で、年1子しか生まない3種のコウモリ類の個体数は急速に減少する可能性が高い。新石垣空港整備事業が2006年10月に着工されて以降、すでにD洞（地図参照）で越冬するカグラコウモリが経年変動を下回って1/4にまで減少したのをはじめ（2007年1月）、本地域のカラ・カルスト地域学術調査委員会による6月の調査において、3種の総個体数は工事前の約3,000頭から工事後の2007年、2008年にその半数以下にまで減少していた。

また2006年からの同委員会による調査結果から、沖縄県の環境アセスメントが不十分であったことを示す重大な新事実がいくつか明らかになった。それは1）2007年6月のA洞での授乳中のリュウキュウユビナガコウモリの確認、2008年6月のC洞での妊娠末期個体の捕獲など、両洞が同種の島内唯一の繁殖場所として極めて重要な位置にあること、2）A洞南側に隣接するD1洞付近に、空気の流れからA洞に通じる複数の洞口があると予想され、その内の1つの洞口はヤエヤマコキクガシラコウモリ400頭以上が利用する出洞口であること（このルートは増水時に洞奥の哺育場所から洞外へ脱出するバイパスとしても重要）、3）ヤエヤマコキクガシラコウモリに利用されている洞窟（C1、B1洞）が2007年、2008年に相次いで発見されたこと、4）工事によって赤土汚染された地下水が、ろ過機能のない洞窟やパイピング（未固結物質に浸透した地下水が、周囲を浸食して大きな管状の空洞を作ること）に由来する空洞を通してサンゴ礁海域に湧出し、赤土がサンゴ礁内に堆積していること、の4点である。

しかし、これらについて沖縄県の調査は不十分で、保全への対策はなされていない。既にコウモリ類の個体数の減少やサンゴ礁への赤土の堆積といった環境への影響が起きているが、沖縄県は「環境への著しい影響が明らかになったときは工事を一時中断する」という環境影響評価書記載事項を遵守せず工事を続行している。離島の生活を豊かにするための新空港が、このままでは希少種やサンゴ礁といった島の資源を破壊することも考えられ

る。日本生態学会は、本地域の絶滅危惧種コウモリ類と世界有数のサンゴ礁生態系を保全するために、以下のことを要望する。

- 1、環境影響評価書記載事項にしたがって工事を中断し、新たに以下の環境影響調査を行うこと。
- 2、工事開始後のコウモリ類の個体数激減の要因を明らかにすること。
- 3、A洞とC洞におけるリュウキュウユビナガコウモリの出産・哺育場所を確定するため、今年度の工事を延期する一方、来年夏季に詳細な調査を行い、生息環境の保全を図ること。
- 4、新たに発見されたC1洞とB1洞について、コウモリ類の生息実態調査を少なくとも1年以上は実施し、その利用実態を確認して保全措置を図ること。
- 5、洞窟の大幅な改変（埋没、人工通路や新洞口の設置）は、コウモリ類の生息環境の破壊または劣化を促進するものでしかない。人工洞窟の設置も保全の機能を果たしていない。該当洞窟の詳細な気象データ（気流も含む）を蓄積し、その変動を予測・評価した上で、保全措置を行うこと。
- 6、石灰岩洞窟やパイピングに由来する空洞を通じて地下水がサンゴ礁海域へ流入する経路や量を調査し、赤土の流出・堆積を予測・評価すること。
- 7、上記の調査の結果や環境影響調査後の新たな事実を含めて、再度、環境影響評価を行い、適切かつ有効な保全措置を図ること。さらに保全措置が不可能な場合は、建設計画を再考すること。

## 2. 活動報告

### ●「野付半島の自然と環境を守る」

#### ワークショップが盛況のうちに終わりました

8月27日に北海道別海町で、本会の主催（別海町共催、日立環境財団後援）で「野付半島の自然と環境を守る」ワークショップが開催されました。別海町の全面的な協力もいただき、雨の中にもかかわらず別海町長はじめ参加者も予想を超える50名以上が参加していただきました。準備していた予稿集が足りなくなるほどで、消滅の危機がせまる野付半島の自然をいかにして守るかを講師と会場がいっしょになって熱い討論を繰り広げました。



それに先立ち、26日には講師たちが別海町の人たちといっしょに野付半島を視察、夜には



◆野付半島を守るシンポジウム「野付半島の自然を守るために」と題したシンポジウム(海の生き物を守る会主催)が27日、根室管内別海町で開かれ、住民ら約40人が熱心に議論した。写真。野付半島は70〜80キロ北の海岸線の砂礫(されき)が海流に乗ってたい積し形成されたと宇多高明・土木研究センター理事が解説。海岸浸食を防ぐ消波ブロックが設置されたことで年間約3万立方メートルの砂礫の供給が止まり、「(野付半島の)付け根が決壊したり、漁業への影響が出てくる」と警鐘を鳴らした。

別海町長主催の夕食会で意見の交換をしました。この催しは北海道新聞、釧路新聞、毎日新聞などの地方版で大きく報道されました。地元の反響も

大きく、話題提供者のスライドを集めて、今後地元で勉強会を開きたいとの希望も来ています。別海町のホームページ <http://betsukai.jp/blog/0001/index.php?ID=1180> にワークショップの内容が詳しく紹介されています。



主催：NPO 海の自然史研究所

## 【関東】

### ●OWSパラオ・サンゴ礁エコツアー開催

三百以上もの島々からなるパラオ諸島は、サンゴ礁が生み出した独特の地形で知られています。そこにはサンゴ礁が作り出した多様な生きものたちの豊かな生態系を観察することができます。今回のエコツアーでは、パラオ在住の倉田洋二OWS副会長の解説により、サンゴ礁としてのパラオをさまざまな視点から観察します。普段経験できない無人島でのキャンプも組み込んだOWSならではの特別プログラムです。現地パラオのご案内は、元OWS事務局職員、田中雅子とOWSパラオ支部メンバーが担当します。この機会をお見逃しなく！

開催予定 11月26日(水)～12月1日(月)

参加費 98,000円(予価)

含まれるもの：現地宿泊費・キャンプ費用ほか

含まれないもの：現地までの航空券(各自手配)

お問合せ OWS事務局まで (Tel:03-5960-3545, E-mail: [info@ows-npo.org](mailto:info@ows-npo.org))

### ●「国際海洋環境シンポジウム2008」

#### －海から魚が消える？ 私たちが今できること－

日時：2008年10月17日(金)10:00～

会場：国際連合大学 ウ・タント国際会議場(東京都渋谷区)

参加費：無料(要事前申込み。オンライン申込み登録は下記ウェブサイトからどうぞ。)

<http://www.greenpeace.or.jp/susea?whalelove>

#### ◆シンポジウムの講師はこちらの方々◆

ダニエル・ポーリー教授 (Dr Daniel Pauly)

ブリティッシュコロンビア大学(カナダ)漁業センター所長、Sea Around Us(私たちを取り巻く海)プロジェクト主任調査官。長年にわたり熱帯、特に東南アジアの漁業を研究。1994年からブリティッシュコロンビア大学の漁業センターで調査を続け、2003年所長に就任。漁業管理およびエコシステムモデリングについて多数の著作があり、その中で紹介されたコンセプト・手法・ソフトウェアは世界中で利用されている。主な例は、「エコパス・モデリング・アプローチ」(<<http://www.ecopath.org/>>[www.ecopath.org](http://www.ecopath.org))、インターネットベースの魚類の百科事典である「フィッシュ・ベース」

(<<http://www.fishbase.org/>>[www.fishbase.org](http://www.fishbase.org))、および世界的な漁業傾向のマッピング (<<http://www.seaaroundus.org/>>[www.seaaroundus.org](http://www.seaaroundus.org)) など。受賞多数。

小松 正之教授 (こまつ まさゆき)

政策研究大学院大学教授(海洋政策論)。経営学修士(MBA)(米エール大)、農学博士(東大)。1977年、農林水産省に入省し、水産庁にて海外漁業協力、漁業交渉などを担当。FAO(国連食料農業機関)水産委員会議長(2001~2003年)、IWC(国際捕鯨委員会)日本政府代表代理(1991~2004年)などを歴任後、農林水産省退職。2008年より現職。『これから食えなくなる魚』(幻冬舎新書、2007年)など著書多数。

その他、魅力的なスピーカーの紹介は専用ウェブサイトからご覧ください。

[http://www.greenpeace.or.jp/campaign/oceans/susea/speaker\\_html?whalelove](http://www.greenpeace.or.jp/campaign/oceans/susea/speaker_html?whalelove)

★オンライン参加登録はこちらから：

[http://www.greenpeace.or.jp/campaign/oceans/susea/registration\\_html?sup](http://www.greenpeace.or.jp/campaign/oceans/susea/registration_html?sup)

★お問い合わせ：

「国際海洋環境シンポジウム 2008 事務局」(株式会社サイマル・インターナショナル内)

電話：03-3524-3132 メール：[marine@simul.co.jp](mailto:marine@simul.co.jp)

## ●第1回国際アサリシンポジウムー資源増殖と管理ー

[http://cse.jircas.affrc.go.jp/swat/asari\\_symp\\_2008/default.html](http://cse.jircas.affrc.go.jp/swat/asari_symp_2008/default.html)

使用言語：英語

開催日時：2008年10月25-26日

開催場所：(独)水産総合研究センター・中央水産研究所

主催者：(独)水産総合研究センター

参加費：無料(予定)

後援：水産海洋学会、日本ベントス学会

開催の背景、目的、意義：アサリはかつてアジアで世界の生産量の80%を占める生物であったが、現在では世界各地にその生産地は広まり、イタリアのシシリー島でも普通に販売されているなどいまや世界的な水産物となりつつある。しかし、一方で本来の生息地では、日本では1980年代半ば、大韓民国では1992年を境に生産量は激減している。現在、日本ではアサリ資源全国協議会を作り、アサリ資源の回復を目指して様々な試みを行っているが、例えば、アサリ種苗の安価な生産等は国内より海外のほうが技術は進んでいる。そのため、今こそ世界のアサリ研究者が集い、情報交換することは我が国のアサリ資源復活のためにも有用と考える。そこで、世界水産学会議に集う諸外国のアサリ研究者に加え、複数のキーパーソンを海外から招聘し、国内の研究者とともに、世界初のアサリシンポジウムを企画する。これにより各国の情報を交換し、アサリの問題点並びに今後の方策等を世界規模で論議し、国内のアサリ資源の問題点を抽出すると共に、世界商品としてのアサリの今後について模索する。

シンポジウムの内容および日程：

10月25日 シンポジウム(9:30-18:00)・懇親会(18:10-)

Opening remarks etc

Keynote lecture-1 10:00-12:00 (Chairperson: Choi Kwang-Sik)

Mitsuharu Toba (Japan) : Asari, past and now in Japan - motive of the establishment of National Conference on Asari Stocks

Bill Dewey (USA) : Ecology and aquaculture of manila clam in USA

12:00-14:00 Lunch and poster session

Highlight in East Asia 14:00-17:00 (Chairperson: Jyunya Higano)

Choi Kwang-Sik (Korea)

Satoshi Watanabe (Japan)

Alok Kalla (India)

Hajime Saito (Japan)

Report from major fishing area in Japan (Chairperson: Satoshi Watanabe)

Hokkaido

Tokyo Bay

Mikawa Bay, Ariake Sound and Seto Inland Sea

Discussion 17 : 00-18 : 00 (Chairperson:Satoshi Watanabe, Jyunya Higano, Hajime Saito, Choi Kwang-Sik)

18 : 10- Banquet

10月26日 現地視察 (参加費無料 (昼食代は別:千葉県漁場他)

懇親会費:2000円程度 (当日徴収)

## 【中国】

### ●第26回日本環境会議 水島大会

9月20(土)~22日(月)

20日13:30~21日16:00 22日8:30~12:30 見学ツアー

倉敷芸術科学大学 (倉敷市連島町西ノ浦)

大会事務局 水島値域環境再生財団 (086-440-0121)

### ●環瀬戸内海会議「海岸生物調査」

環瀬戸の生物調査もほぼ順調に進み、現在把握している段階で調査地点 47箇所、参加人員 407人になっています。

今後の予定として

9月13日(土) 岡山県水島2箇所 13:00財団事務所集合

協力:みずしま財団 連絡先:水島財団塩飽 TE:086-440-0121

14日(日) 愛媛県弓削島 13時弓削フェリー乗り場集合

連絡 小西:090-8993-2322

15日(月)香川県直島 13:30宮浦港集合  
連絡 小西:090-8993-2322

## ●緊急署名のお願い

長島の自然を守る会の高島美登里です。さる6月17日に中国電力が上関原発予定地である田ノ浦の公有水面埋立免許願書を山口県に提出しました。埋立許可願書には、国の天然記念物であるカンムリウミスズメの記載が抜け落ちており、対岸の祝島の住民の死活問題を全く無視しているという、根本的欠陥があります。今後、山口県知事の判断にすべてがかかっていますが、9月の上関町議会に地元意見を諮問し、早い段階で判断をする可能性もあり、事態は急を要しています!! ついては、大変緊急で申し訳ありませんが、下記趣旨をご理解いただき、全国・全世界への署名依頼にご協力をお願いいたします!! 電子署名も受け付けます。添付資料をご入用な方はお知らせください。添付メールだと容量が重いので、宅ファイル便で送付します。A4裏表4ページです。(A3で1枚分)

集約日; 1次集約 9月26日、2次集約 10月15日 です。

署名趣旨は以下のとおりです。

★上関原発予定地「田ノ浦」は世界に誇る自然の宝庫です! 世界で一番小さなクジラのスマナメリが子育てをし、人類の祖先といわれるナメクジウオや珍しい貝がたくさん棲んでいます。

★国の天然記念物のカンムリウミスズメが生息! 繁殖の可能性もあります!!

★カンムリウミスズメの記載が一切ない?!

「公有水面埋立免許願書」の根本的欠陥

埋立免許願書はカンムリウミスズメの記載が一切ないなど根本的な欠陥を持っており「埋め立てありき」の企業姿勢が如実に顕れています。

★田ノ浦の埋め立ては、祝島の人々の生きる権利を奪ってしまいます!

田ノ浦の埋立は海を隔てて4キロの対岸にある祝島の「命の海」を奪い、そこに暮らす人々の生きる権利も奪います。

★私たちは山口県知事に、中国電力の埋め立て免許願書を、許可しないことを強く求めます。

長島の自然を守る会 代表 高島美登里 [midori.t@crocus.ocn.ne.jp](mailto:midori.t@crocus.ocn.ne.jp)

## 【沖縄】

### ●「沖縄のサンゴ礁」プロジェクトで市民ボランティアを募集中!

主催:アースウォッチ

■実施日:2008年9月16日(火)~9月20日(土)[4泊5日]

□研究分担金:80,000円(5日間)

※ボランティア本人の那覇空港から瀬底までの往復移動費用、滞在費用、研究費用支援やプロジェクト運営、保険に充当されます。集合場所までは各自で手配となります。

(非会員はこのほかに入会金・年会費が必要です)

#### ■プロジェクトについて

近年カリブ海およびオーストラリアのグレートバリアリーフから相次いで海水温の上昇によるサンゴの白化現象が報告されています。サンゴの白化現象は海水温の上昇だけでなく、サンゴ礁の栄養循環、海流、微生物の働き等が関係していると考えられ、サンゴの白化現象の科学的解明とその対策をにはサンゴ礁全体の生命維持のしくみを知ることが必要です。2008年度は、昨年を引き続き、琉球大学の熱帯生物圏研究センター瀬底実験所を中心に、静岡大学鈴木敦教授による、サンゴの白化の機構解明とその主要因子等の解明の研究調査を行います。ボランティアは、実験室でのサンゴの化学分析を中心に、フィールドでのサンプル採取など、データ収集を手伝います。

2008年は国際サンゴ礁年です。沖縄の素晴らしいフィールドを舞台に、サンゴを守るための調査ボランティアにぜひ参加をおねがいします！

持ち物など、詳しくはアースウォッチのHPをご覧ください。

<http://www.earthwatch.jp/project/projectlist/japan/OkinawaCoralReef/index.html>

■募集人数: 各チーム最大5人(16歳以上であれば、研究経験を問わず誰でも参加できます。)

#### ■お申し込み・お問い合わせ

ご興味をお持ちの方は、まずはWEBフォームや電子メールなどで空き状況などをお問い合わせ下さい。

WEB 空き状況確認フォーム <http://www.earthwatch.jp/getinvolved/application/>

電子メール [info@earthwatch.jp](mailto:info@earthwatch.jp)

#### ■参加方法・費用について

<http://www.earthwatch.jp/getinvolved/condition/doc-japan.html>

アースウォッチへの入会(入会金 5000 円、初年度年会費 5000 円)

### ●市民による海草調査

沖縄ジャングサウォッチ2008 <10月調査> ご参加のお誘い

シーグラスウォッチ・ジャパンでは、今年も市民による海草調査「沖縄ジャングサウォッチ」を行います。これは、シュノーケルをしながら海草の生育状況を調べる活動で、2006年まで(財)日本自然保護協会(NACS-J)が行ってきた調査活動を引き継いだものです。基地建設問題に揺れる名護市東海岸は、ジュゴンの住む海。ジュゴンのえさ場である海草藻場の長期的なモニタリングを行い、市民の側から科学的な目で海草藻場の変化を記録することで、海草藻場の保全につなげて行きたいと考えています。今年は9月13日と14日に調査を予定していましたが、台風13号の接近により10月へと変更になりました。新たな日程でご参加いただける方は、末尾のお申し込みフォームにご記入の上、10月5日(日)

までにメール・ファックス・郵送のいずれかでお申し込み下さい。初心者大歓迎です。ジュゴンや海草藻場保全に興味のある皆様のご参加を、心よりお待ちしております。

■ 参加条件 ■

- ・シュノーケリングと、水深3m 程度までの素潜りができる方。（素潜りに不安がある方はご相談下さい。）
- ・初めてご参加いただく方は、必ず18 日の初心者講習を受けていただきます。
- ・参加費無料（保険料はこちらで負担）。ただしお弁当と宿泊が必要な方には実費をお願いします。

■ スケジュール (NEW!)

□ 10/18 (土) 名護市嘉陽の海草調査

12:30 嘉陽・松浜荘駐車場に集合、17:00 終了予定。

【内容】 砂浜からシュノーケリングで海に入り、水深1~2m の場所でラインを引きながら海草調査を行います。初めてご参加いただく方には、現地で初心者講習（海草の見分け方と調査方法のレクチャー）を行います。

□ 10/19 (日) 名護市辺野古の海草調査

10:00 汀間漁港に集合、16:00 終了予定。

【内容】 2隻の船で汀間から辺野古の調査海域に移動し、水深1~3m 程度の場所でシュノーケリングによる海草調査を行います。調査の途中、辺野古岬沖の長島または平島で昼食をとる予定です。

● ジュゴンの食み跡秋期調査 (1)

調査域> 嘉陽海岸 (松浜荘午前9時集合)

- ・9月21日 (日) 調査練習日 (新参加者は必須)
- ・9月22日、23日 (秋分の日) 本調査

参加者希望者は装備の貸し出し希望の有無、サイズ (シュノーケリングマスク、フィン、ウェットスーツ、マリンスーツ、ウエイト) 及び、宿泊希望、生年月日 (保険情報)、住所、連絡先 (電話) を以下にご連絡下さい。

北限のジュゴンを見守る会・沖縄事務所 Tel/Fax:0980-43-7027 携帯:090-8032-2564

E-mail:[n-hokugen.19@kjd.biglobe.ne.jp](mailto:n-hokugen.19@kjd.biglobe.ne.jp)

## 5. 海の生き物とその環境に関する出版物の紹介

● 「消える日本の自然 ー写真が語る 108 スポットの現状ー」 鷲谷いづみ (編)  
恒星社厚生閣 pp.209 ¥3,000+消費税

海関係では、「海岸 (向井 宏)」「干潟 (風呂田利夫)」「サンゴ礁 (岡本峯雄)」「海中林 (谷口和夫)」が執筆。購入希望者には著者割引 (2 割引) で販売していただきます (送料 350

円)。希望者は向井まで。

## 5. 事務局便り：

- 講演での講師派遣を希望される方は、事務局へお問い合わせください。沿岸の生物やその環境についての問題、沿岸生態系の構造、保全、再生、地球環境問題、環境教育などに関する講演を行うことができます。
- 本会へのカンパをお寄せください。口座は埼玉りそな銀行指扇支店 3896180。
- 企画案などその他なんでも本会の活動に関することは、事務局あてにお寄せください。
- このメールマガジンは、毎月1日と16日の2回発行の予定です。配信を希望する方、送りたい方がありましたらアドレスをお知らせください。また、パソコンを使えない方には印刷体でもお届けします。その場合は、郵送料をご負担していただくことがあります。
- このメールマガジンは転載自由です。海の生き物に関心を持っている方に広く読んでいただくために転送をお願いします。ただし写真を別の目的で使用する場合は事前にご連絡ください。海の生き物や海の生き物を守る運動についての情報など、また各地で行われている海の生物の観察会、研修会、その他の行事に関する情報もお寄せください。「うみひろも」のバックナンバーをごらんになりたい方は事務局までご一報ください。
- 本会は自然観察会や講演会を各地で実施しています。各地で開催を希望される方、開催をお手伝いできる方は、ご一報ください。また、各地の団体との共催も行います。ごいっしょに講演会や観察会をしたいと思われる団体からも提案をお受けします。

## 6. 編集後記

北海道別海町で開かれた「白砂青松を守るプロジェクト」の野付半島ワークショップが無事終わりました。多くの関心のある地元の人や行政、漁業者、報道関係者などが予想を超えて参加していただきました。共催していただいた別海町の町長はじめ地元自治体の方々にお礼申し上げます。別海町で話題になった砂浜とその自然の保全については、これまであまり議論されてこなかった問題だと思います。「海の生き物を守る会」では、今後もこの問題を全国の海岸を対象に、考えていきたいと思っています。読者や会員で、地元でもこんな問題があるという情報やシンポジウムの企画案などをお寄せください。

なお、「海の生き物を守る会」の事務局が、引っ越しします。新しい事務局は、10月1日に以下の場所に開設します。

〒606-8244 京都府京都市左京区北白川東平井町 23-1 グリーンヒル北白川 23 号室  
電話&FAX：075-703-7205

これからも「海の生き物を守る会」の活動にご理解とご協力をお願いいたします。(宏)

## 7. 「うみひろも」と「海の生き物を守る会」について

この「うみひろも」は「海の生き物を守る会」のメールマガジンです。会員および関心

を持っていただけると思われる方にお送りしています。配信が迷惑と思われる方は事務局までご連絡ください。「海の生き物を守る会」の趣旨および組織の概要は会のホームページ <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html> をごらんください。

## 会員募集中！

会員は本会の趣旨に賛同できる個人・団体とします。会費は個人 2,000 円／年、団体 20,000 円／年。匿名による参加も可能です。会員は、当会の名前を使って各地で海の生物とその環境を保護・保全する活動を行うことができます。活動は当会の発行するメールマガジンなどを通して広く通知されます。会員は本会の名前で各地の活動のための助成金申請をすることができます。入会希望の方は、事務局 [hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp](mailto:hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp) (向井) まで、氏名、住所、メールアドレスをお知らせください。

## 事務局員も募集中！

事務局を手伝っていただける人を探しています。パソコンが使える環境にあれば近くにいなくてもお手伝いいただけます。ただし、無収入ですので海の生き物の保全・保護に関心とボランティア精神のある方。

メールマガジン『うみひろも』第 24 号 2008 年 9 月 15 日発行

発行&編集人「海の生き物を守る会」代表 向井 宏 (090-8563-1501)

〒350-0001 川崎市古谷上 6083-7 M-1-212

〒606-8244 京都市左京区北白川東平井町 23-1 グリーンヒル北白川 23 (10 月 1 日より)

メールアドレス：[hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp](mailto:hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp)

ホームページ URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

銀行口座：埼玉りそな銀行指扇支店 3 8 9 6 1 8 0

